

# 無意識のジェンダーバイアスを視覚化し気づきを促す学習システムの提案

—実態調査を踏まえて—

## Proposal of Learning System Offering Conscious Awareness about Gender Bias by Visualization

-From Questionnaire Survey -

井上 菫<sup>\*1</sup>, 真嶋 由貴恵<sup>\*2</sup>, 榊田 聖子<sup>\*2</sup>  
Ayame INOUE<sup>1</sup>, Yukie MAJIMA<sup>\*2</sup>, Seiko MASUDA<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup>大阪府立大学現代システム科学域

<sup>\*1</sup>College of Sustainable System Sciences, Osaka Prefecture University

<sup>\*2</sup>大阪府立大学人間社会システム科学研究科

<sup>\*2</sup>Graduate School of Humanities and Sustainable System Sciences, Osaka Prefecture University

Email: sca00030@edu.osakafu-u.ac.jp

**あらまし**：家事や育児，仕事のバランス，パートナーや同僚との役割分担などを決定する際に，ジェンダーバイアスによって決定が大きく左右されることがある．そこで本研究では，大学生・大学院生を対象にジェンダーバイアスに関する実態調査を行った．その結果，自分の中に存在するジェンダーバイアスに気が付いていない人々が見受けられた．この結果を基に，無意識のジェンダーバイアスを視覚化し，その存在への気づきを促進するシステムを提案する．

**キーワード**：ジェンダーバイアス，仕事，育児，無意識，視覚化

### 1. はじめに

近年，政府による男性の育児休業制度や女性管理職割合の目標制定などにより，人々が性別に関わらず自由にライフサイクルを決定できるような環境構築が進められてきた．しかし，2018年度における男性の育児休業取得率が7.48%に留まる<sup>(1)</sup>など，制度の十分な普及には至っていない．男性の育休取得率が上がらない理由として，「男性が育休を取りにくい雰囲気がある」「女性が取るものだと思われる」などが挙げられる．ここには「家事・育児は女性の役割である」というジェンダーバイアスが存在する．

ジェンダーバイアスは，幼少時から周囲の環境に影響を受け徐々に構築されると言われている．現代の若者は，親世代が男女共同参画社会の概念が浸透する前に就職や結婚を決めているため，その影響を受けて，ジェンダーバイアスが強い傾向にあるのではないかと考えられる．また，昨今の女性の社会進出により，ジェンダーによる差別が見えにくい環境にいて，自分が持っているジェンダーバイアスに気が付くことも難しい状況になっているのではないかと考えた．

そこで本研究では，若者のジェンダーバイアスの実態を調べるために，大学生・大学院生(以下，学生)を対象にアンケート調査を行った．その結果を基に，ジェンダーバイアスを外部からのアプローチによって視覚化し，その存在に気が付くことができるシステムを提案する．

### 2. ジェンダーバイアス

ジェンダーバイアスとは，人々が無意識に持つ性別に関する偏見のことである．最近では，就職活動

時にエントリーシートの性別記入欄を削除する，AI面接を導入するなどの方法で，ジェンダーバイアスによって採用の公平性が失われないようにする取り組みもある．採用に限らず，日常生活の様々な場面に存在するジェンダーバイアスによって，多くの人々が人生の選択肢を狭められていると考えられる．この問題を解決するためには，人々が自分自身にもジェンダーバイアスが存在することに気が付くことが必要である．

### 3. アンケート調査

2021年1月14日～1月27日の日程でGoogleフォームによるアンケート調査を実施した．

#### 3.1 アンケート対象者

同意を得られた学生43名(女性：19名，男性：23名，その他：1名)を対象とした．

#### 3.2 調査内容

調査は，表1に示すように対象者の個人属性に関する項目と，ジェンダーバイアスの高低を測定する項目で構成した．

表1 調査項目

内容	カテゴリ
1.個人属性	①性別など
	②育った環境など
2.ジェンダーバイアスの高低	①ジェンダーと働き方，育児に関する現状認識
	②働き方，育児の理想

表2 アンケート結果

質問内容	女性 (N=19)	男性 (N=23)	全体 (N=43)
1.育児や家事に関するニュースは興味を持って見ている.	2.68	2.48	2.53
2.子育てをする自分が想像できる.	2.26	2.74	2.49
3.自分は仕事と子育てを両立できると思う.	2.26	2.57	2.40
4.子育てをする女性はすごいと思う.	3.26	3.52	3.49
5.結婚後もしくは子どもの誕生後も仕事を続けたい.	3.21	3.70	3.49

調査項目の内容2では、3段階評価が1項目、記述が4項目、その他の項目は4段階評価(1:全くそう思わない~4:とてもそう思う)とした。

### 3.3 仮説

男女とも、育児や家事は女性の役割であり、男性の役割は労働であるというジェンダーバイアスを持つが、その存在に自分自身は気が付いていない。

## 4. 結果および考察

4段階評価の質問項目のうち、性別ごとの評定平均値の差が0.2以上となった項目を表2に示した。

質問1より家事や育児に関心が強いのは女性であることがわかり、質問5からは、女性と子育て、男性と仕事の結びつきを持つ学生が見られた。一方で、質問2と3からは、女性は男性よりも子育てをする自分が想像しづらく、仕事と育児の両立も難しいと感じていることが明らかになった。育児について学ぶ機会が減ったことなどが原因であると考えられる。また、女性は男性よりも育児への関与度が高く、育児と仕事の両立を達成したと感ずるため、男性よりも両立が難しいという回答が多かった可能性がある。

最後に、普段の生活でジェンダーバイアスを感じることがあるかと尋ねると、男女ともに感じると答えた学生が多かった。しかし、記述で具体例を求めると、他人が持っているジェンダーバイアスに対する記述はあるものの、自分自身を含めた記述はなく、自身もジェンダーバイアスを持っていると認識していない可能性が考えられる。

## 5. 提案するシステム

無意識(アンコンシャス)バイアスは視覚化すると行動変容を起こすのに効果的である<sup>(2)</sup>ことから、自身が持つジェンダーバイアスに気が付いていない人々(学習者)が、その存在に気づき、理解・行動できるように、ジェンダーバイアスを視覚化するシステムを提案する。人は、自分の中にある、自分が知らないものの存在を受け入れることに拒否感を持つことが多いと言われる。そのため他者に知られず、学習者が一人で振り返りまで行う。

### 5.1 ワードウルフ

システムには潜在的な意識が現れやすいワードウルフを応用する。ワードウルフは複数人で行い、ウ

ルフだけが周りとは違うお題を与えられ、全員で議論をする中で、誰がウルフかを当てるゲームである。

### 5.2 学習の流れ

学習者は、アプリ上のワードウルフの参加者が与えられたお題(育児が3名、仕事が1名)を知っており、参加者の会話を見て、ウルフ(お題が仕事である参加者)を見分ける。学習イメージを図1に示す。アプリ上の参加者には、育児から女性を連想した発言をする人や、男性を連想した発言をする人が存在する。図2は参加者の会話例である。



図1 学習イメージ

- ① コロナ禍で女性の負担が増えて、大変ですね。  
 ② そうですね、頼れるものもなく達成感も得られにくいし。  
 ③ 女性にしかできない部分も多いですしね。  
 ④ そうかな、男性の方が負担、増えたんじゃないですかね。思い通りにいかないこともあるし。

図2 会話の一部例

図2のような性別に関する発言が出てくると、育児と女性の結びつきが強い学習者は、ウルフが見分けられない。つまり、性別が仕事と育児の役割分担に与える影響の大きさが理解できる設定とする。

また、学習者がウルフを見分けるきっかけとなった言葉やフレーズを記録し、ゲーム後に視覚的に振り返りができるようにすることで、ジェンダーバイアスの存在に気付くことができる構成とする。

### 参考文献

- (1) 令和元年度雇用均等基本調査: “事業所調査”, 厚生労働省, p.22 (2019)  
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/71-r01/03.pdf>  
 (2021.2.7)
- (2) 無意識バイアス(アンコンシャス・バイアス)を測定するテスト: ChangeWAVE (2020)  
<https://changewave.co.jp/2020/09/14/angle0914/>  
 (2021.2.8)